

4－5					
主題	キャリア段位制度のツールを活用した職員の意識変化の研究について				
副題	「無意識」から「意識」するケアへ				
キーワード 1	キャリア段位制度	キーワード 2	人材育成	研究(実践)期間	6ヶ月

法人名・事業所名	社福) 康和会 特別養護老人ホーム久我山園
発表者(職種)	箱山玄(介護職員)
共同研究(実践)者	山崎達也(介護主任)

電 話	03-3309-3211	F A X	03-3326-6054
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	世田谷区に位置する社会福祉法人康和会は、病院・老健・特養が同一敷地内にあり、保健・医療・福祉一体型のサービスを地域住民に提供しています。 「敬・愛・喜」の心を理念として、入所から看取りまでご利用者とご家族に安心した生活を送ってもらえるように努めています。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

厚生労働省が発表している平成 27 年度「介護実態調査」では、介護職の離職率は 17.6%、採用率が 20.6%と安定していないのが現状である。また、勤務年数別離職率で見ると、3 年未満の割合が 1 番高くなっている。理由として「人手が足りない」「人間関係が悪い」と様々な要因があるが、「社会的評価が低い」という意見もあり仕事のモチベーションが上がらないのも問題である。

福利厚生等の恵まれた環境にて離職率が低く、安定したサービスと統一したケア方法を利用者提供が出来る当園でも、職員のモチベーションが上がらず毎日のケアを機械的にこなす日々が見受けられた。時間に追われている訳ではないが、一つ一つのケアの意味を考えず、身体が覚えているケアを行ってしまう。結果、「無意識＝介護者本意のケア」となっている課題があった。職員の意識変化とスキル確認の為、本研究に取り組んだ。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

平成 24 年度から始まった、厚生労働省が推奨する国家戦略・プロフェッショナル検定、キャリア段位制度に注目した。本来の意味のレベル認定ではなく、OJT ツールとして活用できる基準で作成されている事を活かし、各職員のケアの見直しとして使用した。

このツールを使用するにあたり、下記の 3 点を仮説に挙げた。

- ・自分のケアを見直し、初心に戻れるのではないか。
- ・利用者本意のケアに近づけるのではないか。
- ・職員が目標を持ち、モチベーションが上がるのではないか。

自らの意識変化と向上意欲は、全体のサービスの質の向上に比例することを期待した。

《3. 具体的な取り組みの内容》

キャリア段位制度のレベル認定2-①のチェック項目＜排泄・入浴・食事・移乗＞を抜粋し対象者に配布した。各ケアを行う前にチェック項目を確認しケアを行った。チェック項目を確認する前と後の意識変化についてアンケートを実施した。

- ＜対象者＞ ・介護士30名（常勤24名・非常勤6名）
- ＜調査期間＞ ・1ヶ月
- ＜調査内容＞ ・チェック項目におけるケアの見直しに繋がった具体的な項目の明記
- ・ツールを使用してのスキルアップについて

《4. 取り組みの結果》

アンケート調査では、配布者30名中、24名の回答が得られた（回収率80%）。チェック項目の確認前と後で、自身のケアに変化があったと答えたのが91%であった。具体的には、「利用者の同意を得てという部分が欠落してケアを行っていた」「自立支援に基づき、スピードを意識せず利用者の残存機能を活かすケアが意識できた」「チェック項目をいつでも見られるようにしてほしい」など、利用者本意のケアに向けた答えが多数あった。また、今回は自分のケアの見直しという事で基本的な介護の実践レベルの配布調査であったが、「2-①のレベルを達成してから上を目指したい」「上のレベルのチェック項目が欲しい」という意見もあった。

《5. 考察、まとめ》

本研究において、個々の職員が、現在「できる部分」と「足りない部分」の明確化が少なからず出来た。同時に、利用者に「何をするのか」「何をしているのか」を意識する中で、声をかけることが増え、安心感を与え利用者の同意を得ることで利用者本意の介護に近づけるきっかけになったのではないかと。また、スキルアップをしたいと自分の目指す介護士像が少しでも見えたことにより、次の目標へ向かう職員のモチベーションの向上につながり、関連性があったといえる。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、職員に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。なお、一般社団法人シルバーサービス振興会、キャリア段位事業部に確認と同意を受けた。

《7. 参考文献》

厚生労働省：キャリア段位制度、
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002ae5j-att/2r9852000002aekd.pdf>
厚生労働省：介護労働の現状、
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12602000-Seisakutoukatsukan-Sanjikan-shitsu_Roudouseisakutantai/0000071241.pdf

《8. 提案と発信》

まだ、始まったばかりのキャリア段位制度だが、様々な角度から使用し介護業界全体でブラッシュアップし、よりよい制度となる事を期待し、真に利用者から信頼される実力を備え、共通意識を持った介護職員集団を目指したい。